

学校教育計画

4年間の目標と主な方策（令和6年度～令和9年度）

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	・カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、多様な生徒に弾力的に対応可能な教育課程を編成する。 ・学習意欲の高い生徒に対して、個別に支援できる体制をめざす。 ・言語活動の活性化、協働的な学びを展開し確かな学力を育成する。 ・資格取得の推進に向けた工業科の指導体制を整備し、受検者数及び合格率の向上をめざす。	・学習指導要領に則った指導と評価の計画を作成するとともに、生徒の状況に即した授業展開を計画する。 ・基礎知識の学び直しや進路実現に向けた外部サービスの活用について充実させる。 ・ICT機器を活用した授業を行い、言語活動や協働的な学びを推進する。 ・生徒の資格取得に向けて、放課後等を活用した計画的な補習授業を展開する。
2	(幼児・児童) 生徒指導・支援	・基本的な生活習慣の確立と規範意識を醸成し、他者尊重しながら、自律した行動をとれる力の育成を目指す。 ・生徒の学校への帰属意識を醸成させるため、学校行事の改善及び部活動を活性化させる。	・全職員で、基本的な生活習慣と規範意識について、指導方針を共有して、計画的に指導する。 ・全職員でSCやSSW活用方法を共有し、積極的な活用を促し、一人ひとりに適切な支援策を検討できるようにする。 ・生徒会執行部や委員会・部活動など連携をとり、個々の生徒が参加できる環境作りを行い生徒主体の学校行事を行っていく。
3	進路指導・支援	・キャリア教育実践プログラムに基づき、学校として体系的な進路指導を行い、生徒の進路実現をサポートする。 ・生徒の要望に対応した、進路先（大学、企業）の開拓を着実に進める。	・求人情報や進学情報なども電子データ化し、素早く生徒に提供できるように環境を整備していく。 ・各科に担当窓口を置き、企業との連携を図る。また、高大連携担当者を配置し、大学とも連絡の交換を密にする。
4	地域等との協働	・地域と協働・連携することを通して、生徒のコミュニケーション能力を高め、豊かな人間性や他者と協働できる社会人基礎力を育む。	・近隣の小・中学校で開催される行事や地域のイベント等に積極的に参加することにより、地域との共生および地域における防災意識の醸成を図る。 ・近隣の小・中学校との連携体制を継続し、積極的に情報共有を図る。
5	学校管理 学校運営	・業務の効率化を図り、職員の働き方改革を推進する。 ・日常的に、事故・不祥事防止に係る研修会を実施し、職員に当事者意識を持たせるように努める。 ・職員の学校運営への参画意識の向上を図る。	・ICT機器に係る設備の拡充を図り職員が負担なく活用ができる環境を整備する。 ・過去のあらゆる事故・不祥事の事例を提示し職員一人ひとりが深く意識的に行動する。 ・全職員が当事者意識をもって発言・行動できるよう広く情報を共有できる環境を構築する。